

## 令和6年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：釧路地区
- 2 事例報告学校名：釧路町立昆布森小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 水澤 好克
- 4 キーワード：ひととの関わりを意識したふるさと教育～「昆布森大好きっ子」の育成

### 1 はじめに ～釧路町と本校の概要～

本校が所在する釧路町は、道東釧路市の東部に隣接し、「長ぐつアイスホッケー」発祥の地で有名である。町の北西部は釧路湿原国立公園・南東部は厚岸霧多布昆布森国立公園に指定されていて、本校はこの国立公園内にあり、校舎から見える海岸線の美しさは見事である。

昆布森小は今年度で開校145年目を迎えた歴史ある学校で、児童数が14名と極小規模校だが、少人数の強みを活かし、8名の教職員と一丸となって教育活動を展開している。釧路町教育行政執行方針の柱である「釧路町大好きっ子の育成」を具現化するため、今年度の学校経営キーワードを【昆布森が好き！自分が好き！】と設定し、その具現化に取り組んでいる。

### 2 昆布森ってどんなところ？ ～自分達の地域を改めて知る～

「釧路町大好きっ子の育成」のためには、「自分たちが住んでいる地域の【昆布森大好きっ子】を育成すること」が最初に大切だと考えた。私は今年度4月に本校へ赴任したので、自分が住んでいる地域のことを、子ども達がどのように感じているかを把握するため、赴任後すぐに下記のアンケート・聞き取りを、全校児童を対象に行った。(数字は回答人数・複数回答含む)

#### 《★ 皆さんの住んでいる昆布森は、どんなところですか？ ★》

- ① 昆布森に住んでいる人がとてもやさしい＝7
- ② 晴れている時の海がとてもきれい＝6
- ③ 小学校の所から見える景色がきれい＝5
- ④ 昆布や魚などがとれておいしい＝5
- ⑤ 遊具がたくさんある公園が大好き＝5
- ⑥ シカなどの動物が近くにたくさんいる＝4
- ⑦ 海や森などの自然がたくさんあって好き＝4
- ⑧ 新鮮な魚が多くて土曜日で買える＝3
- ⑨ 昆布森の小学校や昆布が大好き＝3
- ⑩ トンネルが昆布森と釧路をつないでいる＝2

アンケートで最も多かった回答は「昆布森に住んでいる人がとてもやさしい」であった。自然や食物ではなく「ひと」だった点に着目し、地域の「ひと」から地域のことをたくさん教えてもらい、様々な「ひと」との関わりから、更に交流を深めるふるさと教育を充実させたいと考えた。

### 3 地域の人材活用 ～様々なひとと関わるふるさと教育～

#### ① 昆布森地区植樹活動【5月17日】

本校裏にある丘の上に、桜の苗を毎年植えている。子どもたちは事前に、昆布森という名前の由来や、森が豊かになることで栄養を沢山含んだ豊かな海になることを学び、「自分達の行う作業が、昆布森のために役立っていることを実感できる」活動である。

実際の作業では地域の方が小学生に寄り添い、重いスコップと一緒に持って苗木に土をかけたり、中学生に協力してもらってバケツで水を運んだり、まさに地域が一体となった取組であった。

子どもたちはそれぞれ協力し合う思いやりの心や、「ふるさと昆布森を今後も大切に思う気持ち」を身に付け、植樹活動により、その大切さを学ぶことができた。



#### ② クリーンピカリン大作戦【5月22日】

子どもたちにとっては「自分たちがふるさと昆布森のためにできること」を実践する場である。

当日は中学校も含め、100名以上もの地域の皆様にご協力いただき、昆布森漁港と西伏古海岸周辺にあったゴミをたくさん拾い、自分たちの手でふるさとをきれいにすることができていた。



#### ③ 昆布森たこおどり練習【6月26日】

釧路町の郷土芸能である「昆布森たこおどり」は、昆布森で漁獲されるたこのユーモラスな動きを表現したもので、「多い幸せ＝多幸＝たこう＝たこ」とつながる海の幸が、ふるさとに幸せをもたらす伝統的なおどりである。

子どもたちや先生方は、地域の方から毎年おどり方を教えていただき、その成果を保育所との合同運動会で披露して、昆布森の宝である大切な伝統をしっかり引き継いでいる。



#### ④ 磯の観察学習【7月22日】

普段はあまり海辺で遊ぶことができない子どもたちのために、保護者の方が磯に生けすを作ってカニ・エイ・フグ・マンボウ等のたくさんの魚を入れ、子どもたちはそれを見て大喜びだった。

昆布森に生息している魚介類に直接触れることで、地域の良さを改めて体感できる取組であり、当日は釧路大生物研究の先生や学生も参加し、魚介類の特徴を教えていただいた。



#### ⑤ 昆布森PR活動【9月13日】

合同修学旅行の際に十勝管内の道の駅で、昆布3種類と5、6年生が総合的な学習の時間に作成した「昆布森特産品レシピ」を観光客に積極的に声を掛けて配布し、昆布森の魅力を発信してPRを熱心に行った。観光客に感謝された児童はとても喜んでいて、この活動を基に、11月に海産物販売店前でPRを行い、12月には町内で、昆布森特産品弁当の販売学習を行う予定である。



### 4 おわりに ～子どもたちの姿から学んだこと～

子どもたちは下校すると間もなく、全校の半数近くの児童が学校横の公園に集まってくる。私は遊んでいる子どもたちに「遊具が沢山あるから、毎日来ても楽しいでしょ?」と聞くと、「ブランコとかも楽しいけど、『ここから見えるきれいな海が好きだから、よく来てる。』」という答えが数名から返ってきた。私はその時、「子どもたちは、自分達が住んでいる昆布森が大好きなんだ!」ということを確認した。「毎日見ている光景にも関わらず、それをずっと好きでいる子どもたちのこの思いを、私はいつまでも大切にしなければならない!」と肝に銘じた瞬間だった。

この「子どもたちの『ふるさと昆布森を大好きな思い』をしっかりつなげていく」ことが、学校に課せられた使命だと痛感した。最近では先生方から「校長先生、私も『昆布森大好き人間』です!」と言われることが多くなり、教職員にも浸透していることがとても嬉しかった。今後も様々な教育活動をととして、【昆布森大好きっ子】の育成に、全力で取り組む覚悟である。